

大学コンソーシアムやまがた幹事会（平成27年度第1回）議事録

日 時 平成27年6月11日（木）13:30～14:25

場 所 ゆうキャンパス・ステーション

出席者 委員長 安田 弘法（山形大学）

副委員長 遠藤 節子（東北芸術工科大学）

川崎 正則（保健医療大学）

井上 元治（米沢栄養大学・米沢女子短期大学）→代理 長岡美佐保

委 員 柏倉 弘和（羽陽学園短期大学）

藤原 茂樹（放送大学山形学習センター）

柿崎 則夫（農業大学校）

椎名 憲次（山形県）→代理 佐藤圭次

松田 芳徳（産業技術短期大学校）

菅原 邦生（山形工科短期大学校）

欠席者 副委員長 大川 健嗣（東北文教大学）

委 員 玉本 英夫（東北公益文科大学）

増山 知也（鶴岡工業高等専門学校）

栗山 恭直（企画会議委員長／山形大学）

説明者 横井 博（山形人材育成委員会・企画運営部会長／山形大学教授）

陪席者 成田 博昭（山形大学教育・学生支援部長）、武田 仁志（山形大学教育・学生支援部学務課長）、齋藤幸太郎（事務局）、西田 靖子（事務局）

議事に先立ち、事務局から、新委員の紹介、説明者、陪席者の報告、及び過半数委員の出席による会議成立の報告あった。

議事

安田委員長から、前回議事録（平成27年3月10日幹事会）の報告と、東北芸術工科大学遠藤委員と放送大学山形学習センター藤原委員の二人へ今回の議事録署名人の依頼があった。

[報告事項]

1 山形人材育成委員会の平成26年度活動報告について

山形大学横井教授から資料1に基づき、平成26年度に行った内容について以下のとおり報告があった

- ・「委員会・部会等の開催」については、総会、各部会併せて13回開催した。
- ・「社会人力育成山形講座の開講」について、30科目を開講し、504人が受講した。

- ・「連携取組評価の実施」では、3つの評価を行ったことが大きな成果である。
- ・(1)連携取組評価と外部評価の実施については、連携取組評価において(2)の授業参観の実施を含め、評価委員から評価とその取りまとめを行ってもらった。また、外部評価においては、二人の評価委員にFD研修会に参加してもらう形での評価をしてもらった。なお、外部評価内容としては、受講者数を広げる努力をしてみてはどの話があった。
- ・「単位互換制度・広報事業」では、新しい内容として国大協広報紙に特集記事として掲載されたことが特筆すべきことである。
- ・「その他」として、平成26年度成果報告フォーラムを実施した。

(主な意見交換等の内容)

特になし

山形大学横井教授から資料2に基づき、平成27年4月13日に行われた「大学間連携共同教育推進事業」中間評価について以下の報告があった。

- ・4月13日に本事業に対する文部科学省による中間評価が行われ、山形大学から小山学長、安田理事、滝澤准教授、成田教育・学生支援部長と私(横井)の5人が出席した。
- ・I. 教育改革、II. ステークホルダーとの協働・評価、III. 取組の実施体制・継続発展について説明を行い、資料2の朱書き部分が当初計画したものより上回っているものを表している。
- ・これに対して3名の評価者から、以下の意見があった。
 - ①短期大学との連携の取り組みが弱いのではないか。
 - ②社会人力への評価を今後どう進め、取りまとめていくのか。
 - ③授業参加については良い評価を得た。
- ・評価結果については、7月に予定されている。

次いで、委員長から、本事業は5年間の予定であるが中間評価により予算査定が行われることになっているもので、中間評価自体は和やかな雰囲気で行われた旨の説明があった。

(主な意見交換等の内容)

特になし

2 平成26年度事業報告について

事務局から、資料3の大学コンソーシアムやまがたの平成26年度事業報告について、以下のとおり当初計画通り実施された旨の報告があった。

- ・「やまがた夜話」は、延べ924人の参加を得て実施された。

- ・各種イベントでは主催、共催併せて4つの事業を行った。
- ・「連携事業」における単位互換の推進事業では、単位互換受講者数は前・後期併せて68人であった。
- ・昨年度創設された「履修学生交通費支援制度」を利用した学生は7人であった。
- ・大学等進学説明会は、13高校であった。

(主な意見交換等の内容)

特になし

[協議事項]

- 1 平成26年度収支決算(案)について
- 2 監査報告について

事務局から、資料4の平成26年度収支決算書(案)の説明の後、資料5の監査報告について説明があった。

(主な意見交換等の内容)

Q: 収入、支出とも第一次補正後予算額から第二次補正後予算額へと大きく動いているのは、受託事業であるので、「大学間連携共同教育推進事業」の全体像の中でこのコンソーシアムの受託事業の内容はどのようなものか。また、額の増減の内容はどのようなものなのか。(藤原委員)

A: 横井教授から説明があった「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」が文部科学省からの補助金を受けて山形大学が行っている事業である。そのうち大学コンソーシアムやまがたでは、「山形人材育成委員会」を設置して、この委員会の下で行われる共同教育部会、連携取組評価部会等の事業に関して委託を受けているもので主に会議開催経費、旅費及び謝金に使用しているものである。また、受託事業収入265,804円の減額理由は、第一次補正後の後に予定されていた各会議における欠席委員の旅費、謝金が不用額となったため、山形大学へ返還したものである。(事務局)

以上の質疑応答ののち、平成26年度収支決算(案)について了承された。

- 3 平成27年度事業計画(案)について
- 4 平成27年度収支予算(案)について

事務局から、資料6「平成27年度事業計画(案)」の説明の後、資料7「平成27年度収支予算(案)」の説明があった。

次いで、委員長から、平成27年度事業計画(案)は、平成26年度事業報告の内容と基本的に同じものとなっていること、また平成27年度収支予算(案)において、収入予算が、山形大学からの受託事業収入が昨年度234万円だったものが124万円と

減額されている旨の説明があった。

(主な意見交換内容)

Q：「やまがた夜話」の講師謝金はどのように支払われているのか。(藤原委員)

A：「やまがた夜話」は、毎週水曜日午後6時半から7時半までの1時間行っていただいている。1回の講演に謝金として5,568円と旅費を支払っている。(事務局)

以上の質疑応答ののち、平成27年度事業計画(案)及び平成27年度収支予算(案)について了承された。

[その他]

1 ゆうキャンパス・ステーションについて

委員長から、資料8に基づき、ゆうキャンパス・ステーションの設置経緯と小山会長から今後の在り方について幹事会で検討願いたい旨の依頼があったこと。また、具体的な内容として、運営費負担金に関して山形大学においては毎年の運営費交付金削減等により、ゆうキャンパスへの支出負担が厳しくなっていること等の説明があり、今後のことについては、現在負担のない機関についても負担が可能かなど「アンケート調査」を実施して幹事会で検討したいこと、そのスケジュールとしては、7月中にアンケート調査・まとめ、8月中に幹事会・会長報告、9月初めころに総会で意見交換を行ってもらふ旨説明があった。

(主な意見交換内容)

Q：アンケートをとった結果、加盟機関で負担増が難しいとなった場合は、この場所から別の場所へ移ることになるのか。その場合の候補地など想定されている場所等はあるのか。(県)

A：現時点では特に考えていない。(委員長)

2 単位互換について

放送大学(藤原委員)から、先般、放送大学において単位互換に係る連携について現状を調査し今後の協議を行った。米沢栄養大学と単位互換をきちんと行うべく準備を進めている。13団体との単位互換について、放送大学ではあらかじめ学生の不利益にならないように包括協定を結ぶという方針で来ているが、最初に協定を結んだ時から機関によっては組織変更や新設等があると思われるので今後さらに調べていく。また、この件については当事者間でお覚書を取り交わしてもらふようにとコンソーシアム事務局から話があったので、手続等を進めるにあたり今後も協力願いたい旨の話があった。

3 蔵王の観光施設について

県の佐藤補佐から、席上追加資料「蔵王の観光施設の位置図」について、蔵王の噴火報

道の影響で特に教育旅行のキャンセルが出ている旨を聞いている。資料のとおり蔵王温泉、蔵王坊平ともに避難勧告区域の外にあるため、特に影響がないということなので、委員の方から学生等に対し、合宿等々に活用してもらえるよう周知願いたい旨の依頼があった。

以上

【当日机上配布資料】

- ・「蔵王の観光施設の位置図」

議事録署名人

山形大学理事・副学長

水田 弘 俊 

東北芸術工科大学
事務局次長

遠藤 節子 

放送大学山形学習センター
事務長

藤原 茂樹 